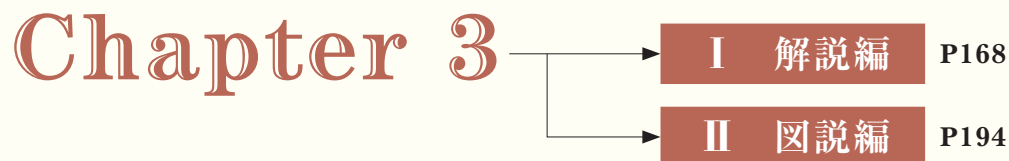
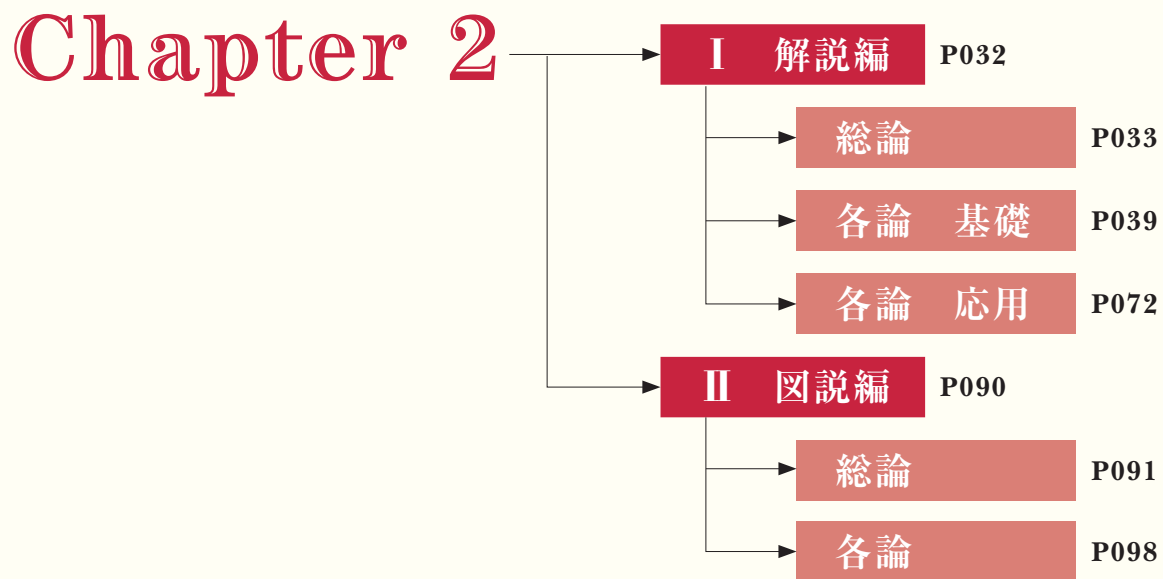


本書の構成

本書を有効活用いただくために

1. 本書のメインであるChapter 2と3は「解説編」と「図説編」で構成されている。
2. 「解説編」は理論的な内容で、「図説編」と連動した解説になっている。
3. 「図説編」は、写真等を中心に臨床術式に沿った解説になっている。
4. したがって、どちらを先に読み進めても「今井メソッドデンチャー」のすべてを理解できるようになっている。



Contents

016 プロローグ

017 1-01 保険診療でもリンゴ丸かじり！

019 Chapter 1 義歯への信念と治療哲学

020 I 今井メソッドデンチャーの原点

020 1 今井メソッドデンチャー“Imai method complete denture”とは？

021 1-02 論より証拠。これが今井メソッドデンチャーの実力！

022 2 “今井式すっぽんデンチャー”から“今井メソッドデンチャー”へ

023 3 世界へ羽ばたく“Imai method complete denture”

024 1-03 モンゴル国立医科大学における指導風景（2019年4月）

025 1-04 リンゴ丸かじり咀嚼試験①（厚切り沢庵、トウモロコシ丸かじりを含む）

026 II 経営戦略的観点から考える“今井メソッドデンチャー”

026 1 リンゴ1個の丸かじりが患者を幸せにする

027 1-05 リンゴ丸かじり咀嚼試験②（厚切り沢庵咀嚼、転覆試験、維持力試験を含む）

028 2 保険診療でも製作可能——多様な選択肢により経営的優位性は向上する

028 3 保険診療と保険外診療の違いは、材料以上に機能追求の精度にある

029 4 患者が患者を呼びこむ歯科医院経営——“よい義歯”が招く増患スパイラル



Chapter 2

今井メソッドデンチャーの理論的背景 (機能を最優先した安定義歯製作法)

I 解説編

総論

- 1 よい義歯といわれるためには
- 2 義歯が安定し機能するためには、支持・把持・維持の3つの要素の調和が大切
 - ①義歯に必要な支持と把持は、維持とは異なった概念である
 - ②脱離・転覆に強い義歯とするためには、顎堤をよく観察し、支持域を重要視した義歯製作が大切
- 3 推進現象への配慮が、十分な機能を有する義歯製作と、その後の予後を決める
- 4 維持力はどの程度必要か
- 5 今井メソッドデンチャーの基本的な考え方と特徴
 - ①上顎こそ、力学とのかかわりで考えた義歯製作が必要（上顎は支持理論が大切）
 - ②下顎は、舌とその周囲軟組織とのかかわりで考えることが優先される（下顎は舌理論が優先される）
 - ③片側性咬合平衡への十分な対応により片側性平衡咬合となる（片側性平衡咬合に深く配慮した全部床義歯製作法の基本的な考え方とは）

各論 基礎

- 1 診査・診断は主訴の改善を目標に行う
- 2 印象採得に対する考え方
 - ①支持域を重視した印象法とは
 - ②接触・非接触、密接・圧接の概念を意識する
 - ③咬合圧印象や咬座印象より“正しい支持域印象”（支持域に対する選択的密接印象）が望ましい

044	3 無歯顎者の咬合採得は旧義歯と顔貌、および嚥下位を基準として行う
045	①下顎を基準とした咬合平面の設定
045	②垂直的咬合位の設定（推定）
046	③水平的咬合位の設定（推定）
047	④咬合採得（上下咬合堤固着）は、嚥下を意識した咬合による無圧接触法で行う
048	4 咬合器の選択と正しい模型の装着
049	5 上顎義歯の安定は、力学的見地から考えることが大切
049	①義歯の安定にかかわる力学的問題
050	②上顎義歯の転覆現象を防ぐために必要なこと
050	6 下顎義歯の安定は、 舌とその周囲軟組織とのかかわりから考えることが優先される（舌理論）
050	①口腔内で大きな容積を占める舌とその周囲軟組織への十分な配慮が、 咀嚼を中心とする義歯の力学環境を整える
051	②安定した咀嚼と嚥下のためには、 下顎を基準とした咬合平面の設定と人工歯排列が大切
052	③舌の状況を正常有歯顎者と比較することにより下顎義歯の安定を考える
053	④下顎義歯は、力学で考える以前に舌とその周囲軟組織による 機能時の義歯の安定を優先する
054	7 義歯が安定し、かつ嚙める咬合様式とは（排列咬合理論）
054	①今井メソッドデンチャーの人工歯排列および咬合様式
056	②人工歯排列が比較的容易で前歯部の排列や 被蓋関係にも十分に配慮した両側性平衡咬合を有する フルバランス的リングライズドオクルージョン
057	8 義歯床縁および歯肉形態の考え方
057	①義歯床縁と人工歯外側の歯肉形態
058	②人工歯内側の歯肉形態、口蓋形態

059	9	粘膜調整材に対する考え方からわかった望ましい印象材とその使用法
059		①粘膜調整材は、本来の使い方以外に印象材としての使用は適切か？
060		②ティッシュコンディショナーの印象材としての使用は何がいけないのか、 支持域の設定は可能か？ ティッシュコンディショナーやシリコーン印象材を使用した ウォッシュ印象は精密印象となり得るか？ 患者に自由な口腔機能運動による 印象採得法を行わせることで十分に機能的な義歯製作は可能か？ 理想的な印象法とは？
063		③それでは咬合圧受圧面にはどのような印象材を、どのように使用するのがよいのか？
063		④正しい支持域咬座印象で得られる選択的密接印象は、 粘膜調整材を使用した印象ではできない
064		⑤今井メソッドデンチャーでは製作する義歯は1つ
064	10	完成ろう義歯を使用した、成功する咬座印象法
064		①基礎床粘膜面は調整しやすい形態とする必要がある
064		②上顎基礎床の調整は、粘膜面に広域支持域の設定をおもに行う
065		③下顎基礎床の調整は、舌小帯部を含む舌側床縁の調整をおもに行う
065		④咬座印象におけるシリコーン印象材の選択基準
066		⑤上顎における支持域咬座印象は、推進現象への配慮で精密となる
066		⑥今井メソッドデンチャーは印象をそのままレジン床義歯とするだけで、 良好な適合と機能が得られる義歯である
067	11	支持、把持、維持、咬合に影響を及ぼす因子を詳細に検討することにより、 機能に優れる義歯は生まれる
068	12	典型的なリンゴ丸かじり義歯の適合試験結果の見方と、 これから判断する機能に配慮した支持域と床縁の設定法
069	13	世界中で普遍的な食品として認められるリンゴを用いた“咀嚼状況調査票”は、 かなり有用
070	14	全部床義歯の“機能評価調査票”は、咀嚼時期ごとに義歯の機能が評価できる優れたもの
070	15	リンゴを用いた義歯の機能・満足度評価法“The Apple Scale”は、 咀嚼状況、義歯の機能、患者満足度が一度にわかる便利な評価法
071	16	完成義歯装着時にわかる“機能に優れたよい義歯”とは

072

各論 応用

072

1 診査・診断と治療困難性の予測

072

① 診査時に心掛けていること

073

② 治療困難性の予測

073

2 個人トレー内面の精密な調整と適切な印象採得が完成義歯の成否を分ける

073

① 個人トレー辺縁部の調整は、辺縁の状況と印象材の性状をよく理解してから行う

076

② 舌小帯部の印象はその形態と動きを理解して、的確なトレー調整により行う

077

③ 支持と把持を考慮した個人トレーの調整と
適切な印象材の選択がリング丸かじりを決める

078

④ 印象に要求される“広域（広い）支持域”の設定

079

⑤ 辺縁封鎖が難しい義歯後縁は設定に十分な配慮が必要

080

⑥ 個人トレー（とくに下顎）による印象法で、
咬合圧の利用とトレーの位置再現性を高めるための注意点と工夫

081

⑦ 印象後のトレー内面における印象の見方

081

⑧ 印象後のトレー辺縁部における印象の見方

082

3 連合印象も視野に入れたシリコーン印象材の選択基準とシリコーン適合試験材の考え方

084

4 支持域咬座印象は正しい操作を経て、 選択的密接印象としない限り精密な印象とはいえない

088

5 それでは印象は無圧と加圧、どちらがよいのか？

088

6 光学印象により製作された義歯でリング丸かじりは可能か？

089

7 粘膜面に対する機能印象法とは？

090

Ⅱ 図説編

091

総論

091

2-01 よい義歯といわれるためには

092

2-02 機能に優れた義歯といわれるためには、脱離・転覆に強い義歯となる必要がある

093

2-03 脱離・転覆に強い義歯とするためには、支持への配慮が大切（支持が基本！）

094

2-04 今井メソッドデンチャーの基本的な考え方

095

2-05 今井メソッドデンチャー3つの特徴（機能最優先の義歯製作）

096

2-06 上顎こそ、力学とのかかわりで考えた義歯製作が必要（上顎は支持理論が大切！）

097

2-07 下顎は、舌とその周囲軟組織とのかかわりで考えることが優先される
（下顎は舌理論が優先される！）

098

各論

098

2-08 診査・診断

099

2-09 診査・診断は主訴の改善を目標に行う。触診が重要

101

2-10 印象採得

102

2-11 スナップ印象は、大きく深い解剖学的印象に舌小帯部の動きを盛り込んだ印象がよい

103

2-12 個人トレーの調整は、上顎ではドーナツ状の広い支持域、下顎では舌小帯部を含む舌側床縁で把持と維持が十分に得られるように行う

104

2-13 位置再現性に劣る下顎個人トレーには、確実な印象のためにジグが必要

105

2-14 簡易咬合圧印象用ジグは口腔内で調整が必要

106

2-15 印象採得は印象材の稠度と、上顎では支持に、
下顎では把持と維持に十分に配慮して行う

107

2-16 下顎における既製トレーによる印象と個人トレーによる支持域簡易咬合圧印象では
印象精度がまったく違う（アルジネート印象材を使用）

108

2-17 印象時の個人トレーに基準線を記入することが咬合採得を楽にする。その後の印象の確認は
支持域の位置、大きさと辺縁の形態を中心に行う

109

2-18 印象法の正しい選択が完成義歯の精度を左右する

110	2-19	各種印象の印象精度による比較
111	2-20	咬合採得
112	2-21	咬合採得には姿勢が大切
113	2-22	咬合床の製作に個人の基準を盛り込むとわずかな調整で咬合採得ができる
114	2-23	下顎咬合平面の設定は、顎堤と口唇の要件に舌の形態、位置、機能を考慮して行う (下顎咬合平面の設定は、安定した義歯の機能のために重要である。これを行わずに咬合採得を行ってはいけない！)
115	2-24	垂直的咬合位の設定は旧義歯装着時の高径を参考として、 顔貌から判断する方法が簡便で間違いが少ない
116	2-25	咬合採得は再現性が重要
117	2-26	ゴシックアーチ描記法による水平的咬合位の設定は、 患者の協力と術者の習熟度が要求される
118	2-27	上下咬合床による咬合採得は無圧接触法で行う
119	2-28	人工歯の排列、試適
120	2-29	下顎義歯の安定は、舌とその周囲軟組織とのかかわりから考えることが大切 (下顎は舌理論が優先)
121	2-30	有歯顎者の舌位を詳細に調べると、下顎義歯の安定に貢献する咬合平面の位置や、 人工歯排列および歯肉形態が見えてくる
122	2-31	人工歯排列1回目
123	2-32	人工歯排列2回目(咬合器上の排列法)
124	2-33	人工歯排列2回目(口腔内での確認と調整)
125	2-34	人工歯の排列咬合理論
126	2-35-a	今井メソッドデンチャーの両側性平衡咬合を有する フルバランス的リングライズドオクルージョンとは、どのような咬合様式か?
127	2-35-b	今井メソッドデンチャーの両側性平衡咬合を有する フルバランス的リングライズドオクルージョンとは、どのような咬合様式か?(中心咬合位)
128	2-35-c	今井メソッドデンチャーの両側性平衡咬合を有する フルバランス的リングライズドオクルージョンとは、どのような咬合様式か?(偏心咬合位)
129	2-36	両側性平衡咬合を有するフルバランス的リングライズドオクルージョンは、 本当によい咬合様式なのか?

130	2-37	今井メソッドデンチャーの人工歯の排列咬合理論
131	2-38	今井メソッドデンチャーは咀嚼時の安定だけではなく、 噛みしめやすさも追求した義歯である
131	2-39	今井メソッドデンチャーの人工歯の排列と咬合の特徴
131	2-40	歯肉形成
132	2-41	製作する義歯には“機能しやすい、違和感の少ない、安定する”歯肉形態を付与する
133	2-42	印象材の厚み
134	2-43	精密な支持域印象法とするために、印象材の厚みに対する配慮の必要性を検討した
136	2-44	支持域咬座印象法
137	2-45	基礎床粘膜面の正確な調整のためには、基礎床を調整しやすい形態とする必要がある
138	2-46	上顎基礎床の調整
139	2-47	下顎基礎床の調整 (舌側床縁を主とした床縁全周の確認調整と床粘膜面の支持域の調整)
140	2-48	下顎基礎床の調整(舌小帯部の調整と広い支持域の確認調整)
141	2-49	調整前(不明瞭な舌小帯部のみ削除した段階)の基礎床粘膜面の適合状態
142	2-50	調整途中(維持力の得られた段階)の基礎床粘膜面の適合状態
143	2-51	支持域咬座印象におけるシリコン印象材の選択基準
144	2-52	上顎における支持域咬座印象は、推進現象への配慮で精密となる
145	2-53	下顎における今井メソッドデンチャーの“推進現象に配慮した支持域咬座印象”の特徴
146	2-54	舌小帯部を含む舌側床縁の精密な設定は、どの段階で得ることができるのか?
147	2-55	今井メソッドデンチャーは印象をそのままレジン床義歯とするだけで、良好な適合
148	2-56	基礎床粘膜面を適切に調整し、 精密な支持域咬座印象を行うだけで機能に優れた全部床義歯となる
149	2-57	今井メソッドデンチャーではリンゴ丸かじりは普通! 完成義歯の咬合の確認、維持力試験と転覆試験、および各種咀嚼試験
150	2-58	義歯の機能を妨げる影響因子

151	2-59	今井メソッドデンチャーは、すっぽんデンチャーとは違う (約10年前を境とした印象法、舌とその周囲軟組織に対する考え方の違い、 および永続性に対する配慮についての検討)
152	2-60	上顎における支持の重要性の検討 (“推進現象に配慮した支持域咬座印象”は上顎こそ有用！) 1a. 上顎における、“咬座印象”と“推進現象に配慮した支持域咬座印象”では、 その後に製作したレジン床義歯の適合に大きな違いがある(同一人物比較)
153	2-61	下顎における支持の重要性の検討 (“推進現象に配慮した支持域咬座印象”は有用であるが、上顎ほどではない！) 1b. 下顎における、“咬座印象”と“推進現象に配慮した支持域咬座印象”では、 レジン床義歯の適合に上顎ほど大きな違いはない(同一人物比較)
154	2-62	下顎における把持と維持の重要性の検討(下顎こそ把持と維持に注力した印象が必要！) 2. 下顎では、個人トレーの舌小帯部を含む舌側床縁の調整精度が 完成義歯の機能に影響する
155	2-63	安定義歯とするために必要な方法の検討(定期的に咬合と支持域の調整が必要！) 3. 経年的に義歯の機能を保つためには、 咬合調整を主とした上顎義歯の支持域の適切な保全が大切
156	2-64	5年後でもリンゴ丸かじり！ 永続的に安定した機能を発現する全部床義歯とするための臨床的重要事項
156	2-65	まとめ(全部床義歯の製作と機能継続に必要なポイント)
157	2-66	良好な適合試験結果とは？ 良好な結果から判断する機能に配慮した支持域と床縁の設定法
158	2-67	シリコーン適合試験材は、印象材と同じ考え方で使用することが大切
159	2-68	適合試験結果の見方。 これから判断する機能に配慮した支持域と床縁の設定位置、形態とは
160	2-69-a	トピックス：94歳でもリンゴ丸かじり！
160	2-69-b	咀嚼の状況、義歯の機能、患者満足度まで含めた総合的な評価法
161	2-70	(3・3・3得点方式)リンゴを用いた咀嚼状況調査票
161	2-71	リンゴを用いた咀嚼状況調査票における前歯部噛み切り試験の状況
162	2-72	(4・4・2チェック方式)全部床義歯機能評価調査票
163	2-73	リンゴを用いた義歯の機能・満足度評価法“The Apple Scale”の概要と調査票
164	2-74	The Apple Scale による評価結果例

Chapter 3

今井メソッドデンチャーの臨床

I 解説編

1 診査・診断

2 スナップ印象採得時の手順と注意点

①既製トレーの選択

②印象操作時の注意点

③印象後の注意点

3 支持・把持・維持に配慮した義歯製作のために必要な個人トレーの製作と調整の手順および注意点

①スナップ印象で得られた模型上に記入すべき事項

②スペーサーについて

③個人トレーの製作

④個人トレーの口腔内での調整

⑤簡易咬合圧印象用ジグを製作

⑥印象前に必要な最後の調整

4 個人トレーを使用した印象採得の注意点

①口腔内でトレーの位置再現性を高めるために顔面にポイント設定をする

②確実な印象採得とするために必要な術者の動き

③閉口印象とするために要求される患者の動き

④リハーサルの重要性

⑤アルジネート印象材の選択と混水比の注意点

⑥印象材のトレー盛り付け時の注意点

⑦印象採得中の注意点

176	⑧印象後の注意点（次の咬合堤製作をイメージする）
176	5 咬合床製作の注意点
176	①石膏模型製作時の注意点
177	②基礎床製作時の注意点
177	③今井メソッドデンチャーにおける咬合床（咬合堤）の作り方
177	6 咬合採得の手順と注意点
177	①上下咬合床の試適
178	②下顎咬合平面の設定
178	③下顎咬合床の咬合堤前方部の設定
178	④上顎咬合床の咬合堤前方部の設定
179	⑤上下咬合床による咬合採得
179	1.垂直的咬合位の設定
180	2.水平的咬合位の設定
180	⑥下顎咬合床は動きやすい！ 上下咬合堤固着時の注意点
181	⑦咬合器に模型が設置できるように不必要部のトリミング
181	⑧平均値咬合器の選択と正しい模型の装着
181	7 人工歯排列試適1回目
181	①上顎は $\overline{7+7}$ 、下顎は $\overline{3+3}$ に人工歯排列を行う
182	②口腔内への試適
182	③咬合の採り直しをした場合は、模型のリマウントを行う
183	8 人工歯排列試適2回目
183	① $\overline{7\sim4}$ $\overline{4\sim7}$ にも人工歯を排列し、完成ろう義歯とする
183	②2回目の試適は完成ろう義歯の口腔内試適となる
183	③シリコン適合試験材（フィット）による基礎床粘膜面の調整
185	9 基礎床粘膜面調整完了後の完成ろう義歯をトレーとした、推進現象に配慮した支持域咬座印象

- 185 ①上下ろう義歯粘膜面の調整が終了したら、
上顎より推進現象に配慮した支持域咬座印象を行う
- 187 ②下顎に推進現象に配慮した支持域咬座印象を行う
- 188 ③印象硬化後に、印象の取り出し状況の確認と正しい印象の見方
- 189 **10 レジン床義歯製作の前準備（技工操作）**
- 190 **11 レジン床義歯の口腔内試適**
- 191 **12 レジン床義歯の装着**
- 193 **13 予後、経過観察**

194 **Ⅱ 図説編**

- 195 **3-01** 症例C：顎堤吸収の比較的少ない、顎位も安定している（初心者向け症例）
- 196 **3-02** スナップ印象は既製トレーの選択が重要
- 197 **3-03** 個人トレーの製作は必ず位置再現性を考慮する
- 198 **3-04** 下顎個人トレーの舌小帯部調整手順
- 199 **3-05** 個人トレーによる概形印象は、支持域と床縁の両方が採得される印象とする
（アルジネート印象材）
- 200 **3-06** 基準線の記入は咬合採得を楽にする
- 200 **3-07** 咬合採得は再現性が重要
- 201 **3-08** 人工歯排列試適1回目
- 202 **3-09** 人工歯排列試適2回目
- 203 **3-10** 2回目の排列終了後、基礎床粘膜面の調整方法
- 204 **3-11** 基礎床粘膜面の調整の流れ
- 205 **3-12** 最終印象の確認（シリコーン印象材による推進現象に配慮した支持域咬座印象）
- 206 **3-13** 完成したレジン床義歯の咬合様式と平衡咬合の確認
- 207 **3-14** 完成したレジン床義歯の適合試験では、支持域と床縁を確認する
- 208 **3-15** 今井メソッドデンチャーのスナップ印象からレジン床義歯完成までの流れ①
- 209 **3-16** 今井メソッドデンチャーのスナップ印象からレジン床義歯完成までの流れ②

210	3-17	今井メソッドデンチャーの優れた機能の確認！ (完成したレジン床義歯の機能試験と咀嚼試験)
211	3-18	症例D：噛みしめができる義歯を希望する、 咬合力が比較的強い上下顎顎堤吸収（顎堤吸収難症例）
212	3-19	スナップ印象は既製トレーの選択が重要
213	3-20	簡易咬合圧印象用個人トレーの製作
214	3-21	上顎は個人トレーによる支持域手圧印象
215	3-22	下顎は個人トレーによる支持域簡易咬合圧印象
216	3-23	垂直的咬合位の設定は旧義歯装着時の高径を参考として、 顔貌から判断する方法が簡便で間違いが少ない
217	3-24	ろう義歯による粘膜面適合試験（上顎）
218	3-25	ろう義歯による粘膜面適合試験（下顎）
219	3-26	咬合力が強く、低い咬合位の症例は上顎に推進現象を起こしやすい (上顎におけるろう義歯粘膜面の適合試験からシリコーン印象材による 支持域咬座印象までの流れ)
220	3-27	下顎におけるシリコーン印象材による支持域咬座印象
221	3-28	上下レジン床義歯の完成と顔貌、咬合の確認
222	3-29	上顎レジン床義歯における粘膜面適合試験とその見方
223	3-30	下顎レジン床義歯における粘膜面適合試験とその見方
224	3-31	今井メソッドデンチャーのスナップ印象からレジン床義歯完成までの一連の流れ
225	3-32	下顎義歯の安定は舌とのかかわりから考える
226	3-33	今井メソッドデンチャーは、顎堤が吸収しても優れた機能！ (完成義歯の機能を調べるための各種試験)
227	3-34	症例E：上顎に広範囲に及ぶフラビーガムと下顎に顎堤の吸収不全を認める症例
228	3-35	フラビーガム難症例の義歯適合試験と機能・咀嚼試験
229		参考文献
231		あとがき